

Schwartzの診断基準

- QT延長症候群 (LQTS) の診断には、Schwartz^{シユワルツ}らによって報告された診断基準が用いられる。
- 基準となる項目は、LQTSの所見や症状として典型的なものである。

Schwartzの診断基準			
	基準項目	点数	
心電図所見	補正QT間隔 (QTc)の延長*1	≥ 480 msec	3
		460~479 msec	2
		450~459 msec (男性)	1
	運動負荷後4分でのQTc	≥ 480 msec	1
	torsade de pointes (TdP)*2		2
	T波交互脈		1
	ノッチ型T波 (3誘導以上)		1
	年齢不相応の徐脈*3	0.5	
臨床症状	失神*2	ストレスに伴う	2
		ストレスに伴わない	1
	先天性嚻 ^{ささ}	0.5	
家族歴*4	確実な先天性LQTSの家族歴	1	
	30歳未満での突然死の家族歴	0.5	

*1 治療前あるいはQT延長を起こす因子がない状態での記録

*2 TdPと失神の両方がある場合は2点

*3 各年齢の2パーセンタイルを下回る場合

*4 両方ある場合は1点

- 点数の合計により、3.5点以上で診断確実、1.5~3点で疑診、1点以下で可能性が低い、と分類される。